

南信州（飯田下伊那）地域の製造業

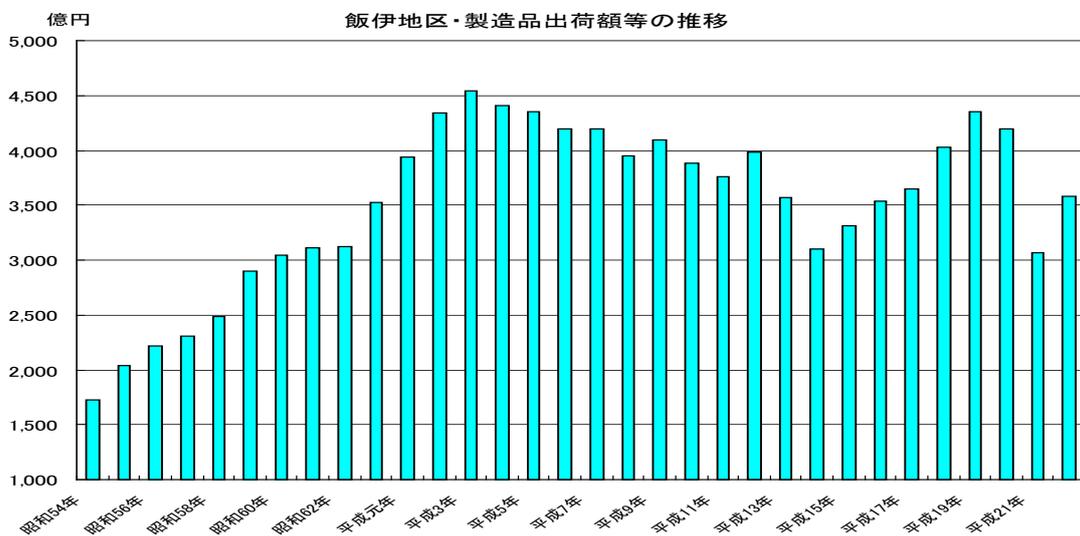
しんきん南信州地域研究所

○製造品出荷額等の概要と推移

当南信州（飯田下伊那）地域の製造業の概要は、平成22年工業統計調査によれば、事業所数526、従業者数16,285人、製造品出荷額等3,583億円で、長野県内の構成比は、事業所数9.5%、従業者数8.3%、製造品出荷額等6.5%となっている。

前年の平成21年度調査と比較すると、対前年比では、事業所数△3.0%、従業者数+3.2%、製造品出荷額等+17.8%となっており、事業所数が減少する中で、従業者数、製造品出荷額等は増加した。

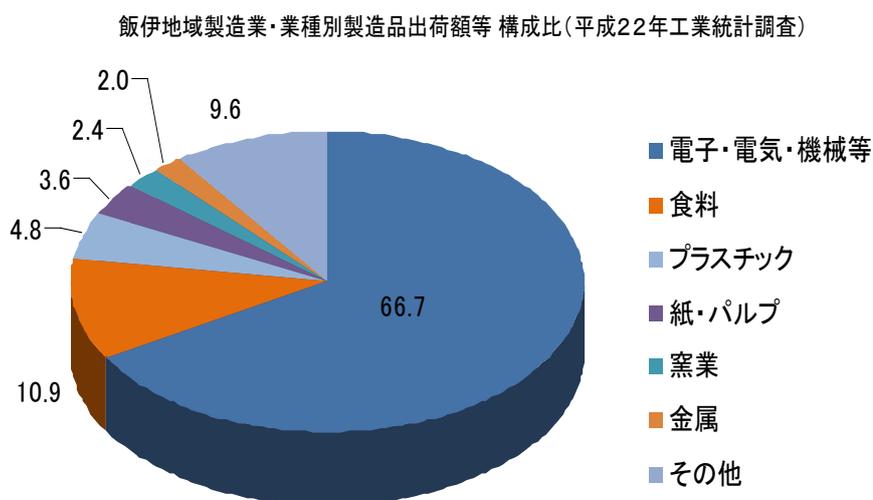
当地域の製造品出荷額等の金額は、平成3年をピークに減少、平成14年を底として、その後は19年まで上昇を続けた。20年の年末からリーマンショックの極めて大きな影響を受け、翌21年は、19年の水準からは3割減少した。その後22年は回復しているが、23年3月の東日本大震災によるサプライチェーンの寸断等の影響もあり、19年の水準までの回復には至っていないものとみられる。



○南信州（飯田下伊那）地域の製造業の業種構造

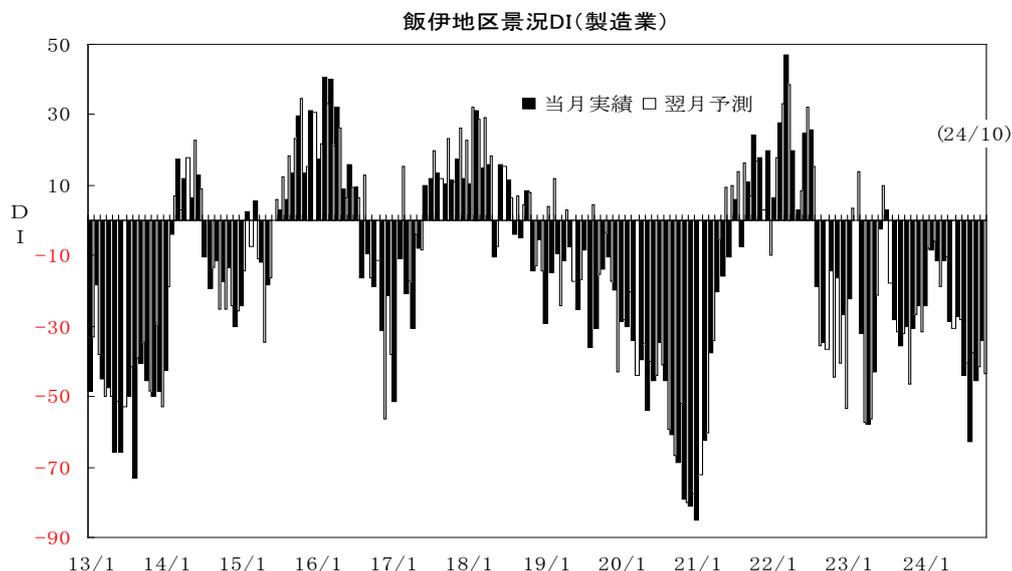
南信州（飯田下伊那地域）の製造業における業種別の製造品出荷額等の金額の構成比は、電子・電気・機械等が66.7%と、約3分の2を占め、当地域製造業の中心的な役割を担っている。

ついで第2位は食料で、10.9%と約1割強となっている。食料は、当地域の地場産業である、半生菓子、漬物が中心。同じく地場産業の一つである水引は、パルプとあわせて4.8%の構成比となっている。



○景況DIの推移（飯伊地区産業経済動向：飯田信用金庫経営相談所発行）

製造業の景況感については、景況DIの推移に見られるとおり、業種構成上、電子・電気・機械等の輸出型業種の比重が高く、当地域製造業においてもリーマンショックの影響が極めて大きかったことが分かる。また、その後も、東日本大震災のサプライチェーンの寸断の影響、欧州財政危機等による為替相場の変動、特に円高の影響が大きく作用している。



○外国人登録数の推移

